

**3 年間のべ 80 名が参加。活動を振り返り、地域住民と「これからの祭り」について対話
マツリズム、能登町・宇出津で「あばれ祭 後夜祭」を開催
～人口減少が進む能登で、関係人口とともに祭りをつなぐあり方を考える～**

「祭の力で人と町を元気に」をミッションに掲げて活動している団体、一般社団法人マツリズム（東京都文京区、代表理事 大原学）は、2026 年 10 月 4 日（日）、石川県能登町宇出津にて「あばれ祭 後夜祭 ―3 年間の振り返りとこれから―」を開催しました。



本イベントは、マツリズムが能登で行ってきた活動を地域のみなさまへ報告するとともに、人口減少が続く能登で、地域外から継続的に祭りや地域に関わる「関係人口」とともに、これからの祭りのあり方を考えることを目的に開催しました。

当日は、地域内外からのべ 30 名超が集まり、マツリズムが 2024 年から 3 年間あばれ祭で行ってきた取り組みや 2026 年のあばれ祭での活動を地域のみなさまへ報告するとともに、宇出津のみなさまとあばれ祭の魅力や今後の祭りのあり方について意見を交わしました。

■ 3 年間の活動を地域へ報告。「これからの祭り」をともに考える

あばれ祭は、毎年 7 月に能登町宇出津で行われる、能登半島を代表する祭りです。キリコが町を練り歩き、神輿が火や水の中で激しく暴れる勇壮な祭りとして知られており、「宇出津のキリコ祭り」として石川県指定無形民俗文化財に指定されています。マツリズムは 2018 年から能登との関係を重ね、あばれ祭には 2022 年から代表大原が参加。能登半島地震が起きた 2024 年からは、担ぎ手不足などの地元のニーズに即して、地域外から参加者を募るプロジェクトを継続して実施しています。祭りへの一時的な参加にとどまらず、準備や片付けを含めて地域の担い手とともに祭りを支え、その後も能登との関係が続く仕組みづくりに取り組んでいます。2026 年は 23 名がプログラムに参加し、うち 11 名は昨年からのリピーターとなるなど、継続的にあばれ祭に関わる人も生まれています。また、若い世代の参加を後押しする支援や、企業・団体との連携など、祭りや地域への関わり方を広げる新たな取り組みも進めました。

後夜祭第一部の報告会・対話会では、こうしたマツリズムの3年間の活動を写真や参加者の声とともに、地域のみなさまへ報告しました。地域の祭りの担い手を交えたクロストークでは、外部参加者を受け入れるうえで大切にしてきたことや難しさなどを共有。その後、地域内外の参加者がグループに分かれ「これからのあばれ祭でどんな景色を見たいか」「その景色を残し、つくっていくために、自分たちに何ができるか」をテーマに意見を交わしました。

対話の中では、「たとえキリコが10本になっても、車を付けない祭り」と、現在約40基あるキリコの数が減っても人が力強く担ぐ姿を残したいという声や、「『ただいま』『おかえり』が言える関係をつくる」といった声が挙がりました。また、「地元の人が主になって祭りをを行う体制作りと応援をもらう体制作りが必要」という意見も共有されました。地域の祭りの担い手が減るなかでも、あばれ祭らしさを守りながら、地域外の関わり手とともにどう支えられるかが、今後の重要なテーマとして浮かび上がりました。

第二部交流会では、あばれ祭で関わった地域のみなさまや参加者が再び集まり、マツリズム参加者が能登の食材を使って調理した食事や地酒などを囲んで交流しました。会場にはあばれ祭で使われるキリコが置かれ、太鼓や笛のパフォーマンスなども行われ、祭りの余韻を感じながら、地域内外の参加者が親睦を深める場となりました。



■人口が減っても、祭りをつないでいくために

能登半島では、過疎化や2024年の能登半島地震を経て、祭りの担い手不足をはじめ、宿泊場所や資金の確保、運営体制などの課題が続いています。一方、震災後、能登各地では祭りの再開が進んでおり、その過程では、地域で暮らす人々に加え、祭りや震災をきっかけに能登とつながり、継続的に関わる人々も存在します。

震災前から続く人口減少に加え、震災後も人口流出が続くなか、地域外から継続的に関わる「関係人口」とともに、祭りや地域文化をいかに次世代へつないでいくかが問われています。マツリズムでは、今回の対話で得られた意見や地域のニーズを踏まえ、祭りを起点に地域と関係人口をつなぐ新たな取り組みを検討していきます。

「あばれ祭 後夜祭」

10月4日（日） 石川県能登町宇出津

第一部 報告会・対話会 13:30～15:30（会場：能登うしつ荘）

第二部 交流会 17:00～21:00（会場：大屋根広場）

主催：一般社団法人マツリズム

協力：notonowild、一般社団法人能登のキリコ祭り DMO、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 EN DINING

後援：能登町

協賛：千葉アカデミー、清水荘

■一般社団法人マツリズム

マツリズムは「祭の力で人と町を元気に」をミッションに掲げて活動している団体です。担い手不足に悩む地方の祭りや都市部の若者や外国人をつなげ、祭りの次代への継承と地域活性化を試みる事業 “Ma-tourism” を軸に、全国で活動を展開しています。また、地域の担い手を対象とした祭りの価値を高めるワークショップや動画作成、祭りの力を活かした企業の人材育成・組織開発支援、教育機関での子どもの探究活動支援も行っています。

所在地 : 東京都文京区千駄木 2-10-17-103 清水荘 ENGAWAWORK

代表理事 : 大原 学

設立 : 2016 年 11 月

URL : <https://www.matsurism.com>

Mission : 祭の力で人と町を元気に

Vision : 多様な人が混ざり合い支え合う感謝と受容の社会をつくる



【本リリースに関するお問い合わせ先】

マツリズム PR 事務局 お問い合わせ窓口 担当 : 大原・紙谷

TEL : 050-3559-9193

E-mail : info@matsurism.com

別紙：2026 年の活動実績

参考資料 | 数字で見る「マツリズム in あばれ祭 2026」

2024 年の能登半島地震を機に、地域のニーズを受けて地域外から参加者を募るプログラムを開始。マツリズム主催の「あばれ祭」参加プログラムには、2024～2026 年の 3 年間でべ約 80 名が参加しました。2026 年は 23 名のうち 11 名が昨年からのリピーターとなり、「一度参加して終わり」ではない継続的な関係が生まれています。

2026 年の主な実績

項目	2026 年実績	この数字から見えること
あばれ祭プログラム参加者	23 名	地域外から祭りの運営・活動に参加
リピーター	11 名	約半数が継続参加
U30 参加者	11 名	若い世代との接点の増加
事前研修参加者	74 名	あばれ祭参加者への事前研修を実施
プログラム満足度	4.79／5	回答者 14 名が 4 または 5 の評価
来年も参加希望	71%	7 割以上が継続参加希望

※20 代～60 代以上が参加

※関東 17 名、北陸 3 名、関西 2 名、東北 1 名から参加

「参加する祭り」から「関係が続く祭り」へ

「マツリズム in あばれ祭 2026」では、能登町宇出津の川原町・仙人町を受入町会として、祭り本番への参加だけでなく、地域文化について学ぶ事前研修、地域の担い手との対話、町会との顔合わせ、キリコの準備・片付け、ヨバレ、事後の振り返りまでを一連のプログラムとして実施しました。事後の振り返りでは、祭りでの体験を振り返るだけでなく、「祭りを通じて自分の中に生まれたものを、これから自分の暮らしや能登への関わりにどうつなげたいか」まで参加者同士で対話しています

若い世代と能登との新たな接点

2026 年は、サントリーホールディングス株式会社の支援を受け、若い世代のあばれ祭参加を後押しする経済的支援と学び支援を実施しました。

経済的支援では、30 歳以下の参加者にマツリズム主催プログラムの参加費割引を設定し、「マツリズム in あばれ祭 2026」では 23 名の参加者のうち 11 名が対象となりました。学び支援としては、あばれ祭に参加する東京大学 49 名、金沢大学 25 名の計 74 名の学生を対象に、祭りの特徴や歴史、地域に関わる上で必要なマインドセット等を学ぶ事前研修を実施しました。

参加後アンケート

2026 年の参加後アンケートでは、回答者 14 名のプログラム満足度は 4.79／5。来年も参加したいと回答した人は 71%で、条件付きを含めると回答者全員が再参加に前向きでした。参加者からは、事前に地域の人の顔や想いを知れたことや、ヨバレや宿で「顔の見える関係」が生まれたこと、準備から関わることで祭りが地域の暮らしや世代をつなぐ営みだと実感できた、などの声が寄せられました。

個人参加から、企業との連携へ

2026 年の新たな取り組みとして、タイガーマーブ株式会社と連携し、将来的な企業研修での活用を見据えた「あばれ祭」参加プログラムを共同で形にしました。マツリズムは、地域の町会との調整・マッチング、参加者向けの事前研修などを担い、8 名がプログラムに参加しました。

個人が祭りに参加するだけでなく、企業・団体が祭りやその背景にある地域文化を学び、地域との関係を築く、新たな参加の形づくりにも取り組んでいます。

地域が抱える課題と、これから

能登の祭りでは、担い手不足だけでなく、準備・片付けの人手、宿泊場所や運営資金、継続的な関係づくり、若い担い手との接点など、複数の課題があります。一方で、これまでの活動を通じて、祭りを「知る」ことから現地への参加につながり、さらに再訪や複数の祭りへの参加へと関係が続く動きも生まれています。

マツリズムでは、今回の後夜祭、そして過去 3 年間のあばれ祭での取り組みや地域の方々との対話を踏まえ、地域が主体となる祭りを支えながら、地域外の人々が地域や文化を学び、継続的な関わり手となっていくための仕組みづくりを進めています。

『マツリズム in あばれ祭 2026』

<https://abarematsumism2026.peatix.com/view>

実施期間

2026 年 7 月 3 日～5 日（前入りプログラムあり）

受入町会

能登町宇出津 川原町・仙人町

参加者

23 名

主な活動

- ・地域の担い手との事前交流
- ・あばれ祭への参加
- ・キリコの準備・運行・片付け支援
- ・ヨバレを通じた地域交流
- ・写真、記事、SNS による記録・発信
- ・事後の振り返り、地域への活動報告

参加後アンケート

- ・満足度：4.79／5
 - ・来年も参加したい：71%
（スケジュール等条件付きを含め、再参加に前向き：100%）
- ※対象 20 名のうち 14 名回答

参加者の声

- 「自然と人のエネルギーを全身で感じ、東京で失われていた“生きている感覚”を取り戻せた」
- 「能登の人にとって祭りは象徴であり魂。その誇りをリスペクトし、傷つけてはいけないと思った」
- 「声と力が合うと、ふっとキリコが持ち上がる。人に任せ、力を合わせる大切さを感じた」